

ツイン・スターのカルト

Cult of The Twin Star Sisters

q s o

1. 神話と歴史

ツイン・スターの姉妹、エレリアとヴェレリアは、赤き月とペランダの精霊王デヘカ息子である謎めいた「見えざる服の内なる男」(“man inside the invisible shirt”)の娘である。子供たちのように、二人ははしゃぎ浮かれ騒ぎ、赤き月の植物や動物の間で無邪気に遊び、時には陽気なジグ(訳注:ダンスの一種)を父親と共に踊ったり、「黒山羊」のシダーナと遊んだ。「黒山羊」シダーナは彼らに真の自由と解放を教えた - 子のことにより、彼女らは帝国において女性の同性愛者のパトロンとして崇拜されている。

彼女らは母である赤の女神に侍女として仕え、月の「流輝川」(the River of Flowing Light)の近く、七月宮の一つに住んでいた。彼女らは長年忠実に仕えていた。あるとき、アラツが赤の女神に敬意を表するために尋ねてきたおり、彼をもてなした。

彼女らは第1ウェインに“月を追うもの”ジャンソールがグラマーに周到に準備した攻撃を仕掛けようとするまでは弱い神性でしかなかった。“禍津(まがつ)の盾の塔”(the Sinister Shield Tower)の頂上で、彼が姉妹の片方(エレリアかヴェレリア)と交戦したが、片割れが彼の注意を逸らし、魔術を断つたため、ジャンソールは敗北した。もう一方(ヴェレリアかエレリア)はルナーの道にセーブルの民を改宗させた。それ以来、彼女らは「蛮族の説得者」(Eloquence With Bararinas)「危機において痛烈な気を散らすもの」(Deadly Distraction In Crisis)と呼ばれるようになった。彼女らはそれ以後、ツイン・スター(姉妹星)として天空にしかるべき場所を有した。

時を経ずして、ブラックスはツイン・スターに気付き、帝国がブラックスに侵攻するまでによく知られることとなった。セーブルの民は、「渴きの高原」から来た同胞達に快く続き、ツイン・スターの崇拜に加わった。

このカルトの全ての信心深い女性は、死後赤の女神に侍女として連なることを許される。カルトに加わり死んだ男性は、天空において女主人を敬虔に護り、彼女らを脅かす邪悪と戦う。

彼女らは「月」「精霊」「光」のルーンと関連がある。彼女らの信仰の他の面、女性の恋人の女神として彼女らは「豊穡」とも関係がある。

2. カルトの生態

ツイン・スターは、赤の女神の信仰へ改宗する助け手として、セーブルの民に礼拝されている。これは彼らが尊敬と感謝の意の両方を有していることを表している。カルトの女祭は、セーブルの民の大きな部族の助言者として働き、またブラックスの民に天空からの姉妹の言葉を伝える。このカルトはオーランスと彼の不調和な行動を嫌っている。彼女らのカルトは、ヤーラ・アラニスとそしてルナーの宗教と関連して崇拜されているワッハと友好的である。彼女らはまたユーレーリアと七母神とも友好的である。

カルトの聖日は「豊穡の週」「火の日」であり、大聖日は「闇の季」の聖日である。

3. 世界におけるカルト

このカルトは主に「渴きの高原」とブラックスの平原のセーブルの民に信仰されている。彼女らは赤の女神に対する彼女らの奉仕において女神の侍女としての関係からもなだめられる。

帝国ではわずかな寺院しかなく、「渴きの高原」を除いて大寺院

が存在しないが、ブラックスの平原にわか存在する。セーブルの民の中で、二人の女祭が女神の外套を身に着け、族長に助言している。その一方で国内では、ティーロ・ノーリのカルトと似ており、しばしば礼拝者を共有する。それはティーロのカルトの元に組み込まれ、下位カルトとして現れる。下位カルトのメンバーはしばしば“女神の侍女”(Ladies-In-Waiting)として振る舞う。

社では《魔術放逐》と《論破》の両方を教えている。

4. 入信者

志願者は通常通りの試験を受けねばならない; 浄化 雄弁 騎乗、そして以下のいずれか: 歌唱 言いくるめ(何れかの)武器攻撃(訳注:本来は 浄化 を含め、5つのうち4つの技能に成功する必要があるため、3つのうち2つを選ばせるべきでしょう)帝国では、入信することはすなわち愛の女神としての姉妹に興味を持っていると見なされる。志願者はPOWを1ポイント捧げねばならない。

志願者は通常のカルトの利点を受ける。彼らは女祭に時間と収入の10%を捧げねばならない。ブラックスでは、通常襲撃と狩りの獲物の形を取る。カルトはブラックスのセーブルの民とペローリアのセーブルの民の間で多くの信徒を持つ。

精霊呪文:《惑い》《魅惑》《霊話》

5. 女祭

女祭(しばしば“姉妹の姉妹”(Sister's Sister)と呼ばれる)への志願者は女性でなければならない。この地位は、通常セーブルの民の間のみで見せかけのものであり、ルナーハートランド(中心地?)では何の政治的な力や魔法的な力をもほとんど持たない(例外は、グラマーの女祭“貞節なる”サランドル(Sarandal the Chaste)である)。

志願者は10ポイントの神性魔術を持ち、カルト技能をそれぞれ50%有し、POW×3で抽象化される聖試験に受からねばならない。

志願者はその際ツイン・スターと心を通わせ、女祭になる。各部族につき、女祭になれるのは二人までである。彼女らは通常的女祭の利益を得、今やカルトに対して90%の時間と収入を捧げねばならない。新しく設立された慣習により、族長は女祭の発言には常に耳を傾けねばならず、彼女がしゃべり終わるまで遮ってはならない。しかしながら、女祭は部族の前で族長に反対を唱えたり、議論したりしてはならない。

一般神性呪文:《神託》《傷の治癒》《呪文伝授》《礼拝(ツイン・スター)》

特殊神性呪文:《論破》《魔術放逐》

6. ツイン・スター特殊神性呪文

《魔術放逐》 Sever Magic

2ポイント、遠隔、瞬間、複合不可、再使用不可

術者は対象とのMP抵抗に勝利しなければならない。勝利したら、対象は精霊魔術および神性魔術を唱える永久に能力を失うが、魔道、ドラゴン魔術、ヒーローパワーを使うことはできる。対象は神聖介入を試みることはできる。これは癒しのカルトかダーカ・ファールのような霊的に提携しているカルトの適切な神性介入によって癒すことができる。

失敗した場合、対象は単に続く2d6ラウンドの間魔法を呼び出すことが出来なくなるだけである。

7. 下位カルト

復讐精霊

違反者の場合、エレリアの下位の異形は彼女の神秘的な刃を扱い

出現する。彼女はINT20POW25を有し、2d6ラウンドの間、精霊戦闘で違反者を攻撃する。成功した場合、犠牲者は成功する《魔術放逐》呪文の影響を受ける。彼女はキャラクターがもっとも弱っている時に出現する。

8 . 友好カルト

赤の女神

通常どおり、ツイン・スターの信者はかの神のカルトに加わることが出来る。

七母神

《支配(ルナーエレメンタル)》《破門》《精神破壊》《四肢再生》《神剣》を提供する。

ワッハ

《支配(法の精霊)》を提供する。

9 . その他

著者 : Nick Effingham

訳者 : R I Z E / 奥田和幸 (zorak@nifty.com)

協力 : 村瀬尚之氏

まりおん / 掛川忠昭氏

この文章は、Nicholas Effingham によって書かれたものを、R I Z E が翻訳したものです。翻訳許可を戴く際に、村瀬氏に協力いただきました。また、今回の翻訳にあたり、まりおんさんに参考にと訳文の一部を戴きました。両氏に、改めてここで感謝します。

翻訳上、おかしいところがあると思います。そのようなところを見つけたら、訳者までお知らせ下さい。

この文章の使用で、何らかの害を被ったとしても、著者並びに訳者、協力者は関知しません。その点、ご自分で判断してご使用下さい。